

今回の訪問には、全日本民医連の医師も参加し、日本原水協代表団は、ビキニ島民が避難しているエジツト島で、健康相談と聞き取りを行いました。

聞き取りの中で、世代が代わっていることを実感しました。健康相談に来た人のほとんどは、ビキニ島民の若い世代の若者たちで、島で生まれた人たちは、

「キリ島の生活はどう？」と聞くと、みんな「いいよ」と答えました。10年前までは「キリ島は監獄の島。外洋に囲まれているため、約りにも泳ぎにもいけない。食料の補給もたどりづらく、食べるものがない」という話を聞いていました。1946年の核実験のため、島を離れた人は

ビキニ被災 70年

原水協マーシャル訪問記

「若い人、そのうち、現在の生存者は9人しかいません。」
ロンゲラップ島民も同じ状況です。さまざまな残留放射能の影響のため、1985年にロンゲラップ島を離れる苦渋の選択をして以来、クワジエレン環礁のメジヤト島、イガイ島、首都マツエロに住んでいます。健康相談にやってきた多くは、メジヤト生まれの人たちでした。

核被害風化させない



被ばくの継承
核実験によるビキニやロンゲラップ島民の苦難の歴史、被ばくの継承が求められています。
今回、3月1日に向か、2月28日、29日と学校生徒や大学生を対象とした取り組みが多く開催され、「マーシャルで何回核実験が行われたか。」から教えています。
原水協代表団は、学生が集まるいたる所で、ビキニ被災の歴史を語り、被ばくの実相を知らせました。マーシャル諸島共和国の元上院議員のアバッカ・アンジャイン・マティンソンさんは「生き残っている被ばく者の証言を中心に、継承をはかりたい」と言いました。

キニデーに参加した前外相の故トニー・デアルムさんの娘でドリュン・デアルム大使が「マーシャルの被ばく者」を人々の友好・連帯を示すシンボルとして、大石さんのやってきたことが、マーシャルの人々に受けとめられたのを感じ、「大石さん、よかったです」と心の中で声をかけていました。代表団は大石さんの意思を受け継ぎ、日本とマーシャルの被害者救済、核廃絶のために、ひき続きがんばることを誓いました。
26日付の「ビキニ被災70年」の記事で、「メジヤト島」の誤りでした。編集上のミスです。
2016年、静岡のビキニ被災の展示の中で、大石さんとご一緒した第五福龍丸の模型が「メジヤト島」の誤りでした。編集上のミスです。
私が大統領への模型の

<3>

日本原水協代表団と同じくオーストラリアのトーマス・ハイノッチ大使は各環礁の上院議員、首長らと懇談しました。その中で、核被害の責任をどうとしない米国に対する厳しい批判が相次ぎました。
「米国は大ウソつきだ」と怒りをぶちまけたのは、エジツト島の核実験場とされたエニウエトク環礁のジャック・アディング上院議員です。
秘密裏の行動
核のごみを保管しているルニツトドームのがれきの中に、米国のネバダ核実験場の汚染土壌100kgを投げ入れたこと、生物・化学兵器の実験が行っていたことなど、秘密裏の行動を最近米国が認めたと言います。「実験の間は、資源がなくネ

ビキニ被災 70年

原水協マーシャル訪問記

核禁条約が救済の道

懇談したジェームズ・マタヨシロンゲラップ首長(左から3人目)、ハイノッチ大使(その右)と原水協代表団



ジョー・アンカー首長は、「白い粉(放射能)を含んだ死の灰」が降ってきたのに、私たちは放置されてきた。がんや甲状腺を患う島民が増えている。昨年、自由連合協定の交渉の場で、米国は核の被害については話したらなかった。少なくとも、
もう悪いことをしたと認め「死の灰」が降ってきた」と述べ、別の道も探さなければ」と強調しました。
マーシャル政府は、ウオッチエ環礁の他に、アイルック環礁、リキエツ環礁、ウオットウ環礁、メジヤト島なども被害地と認めよと米国に要求しています。
被ばく地のみならず、マーシャル諸島全体が核実験被害者への補償、経済、島民の生活、すべてに行き詰まっています。核兵器禁止条約への参加をよびかけ、大きな反響がありました。
ハイノッチ大統領は、3月1日の式典で「核兵器はシエノサイド兵器だ。禁止条約は支持するが、(被害者支援と環境修復)について定めた」第6条が弱いので、批准には至らない」と述べました。
大統領としては、自由連合協定の交渉で米国が同意した信託基金20年で7億ドルを米国議会に承認し、この地域の多くの国が、核兵器のない世界を求めたい。隣の国で同じく核実験の被害を受けたキリバスが禁止条約の被害者支援の先頭に立っています。この世界の流れに乗りこえ、マーシャルの被害者救済の道を開くのです。代表団は、その手助けをするつもりだと確信しています。
原水協代表団は、自由連合協定でクワジエレンの米軍基地の存在も障害ではない」との理解を促しました。禁止条約第7条の国際協力、国際信託基金の計画については、五窮しといえる多くの被害地が「その支援が欲しい」と答えました。
冷戦の時代、大国の核実験場とされたエニウエトク環礁にされたエニウエトク環礁のジャック・アディング上院議員です。
秘密裏の行動
核のごみを保管しているルニツトドームのがれきの中に、米国のネバダ核実験場の汚染土壌100kgを投げ入れたこと、生物・化学兵器の実験が行っていたことなど、秘密裏の行動を最近米国が認めたと言います。「実験の間は、資源がなくネ

支援助が欲しい
現地が開かれていた国連人権理事会の分科会で、大使は2度も発言する
原水協代表団は、自由連合協定でクワジエレンの米軍基地の存在も障害ではない」との理解を促しました。禁止条約第7条の国際協力、国際信託基金の計画については、五窮しといえる多くの被害地が「その支援が欲しい」と答えました。
冷戦の時代、大国の核実験場とされたエニウエトク環礁にされたエニウエトク環礁のジャック・アディング上院議員です。
秘密裏の行動
核のごみを保管しているルニツトドームのがれきの中に、米国のネバダ核実験場の汚染土壌100kgを投げ入れたこと、生物・化学兵器の実験が行っていたことなど、秘密裏の行動を最近米国が認めたと言います。「実験の間は、資源がなくネ